

2021年6月10日

各位

H2株式会社

血糖値の管理アプリ・シンクヘルスが 第64回日本糖尿病学会年次学術集会にて発表 ～患者のHbA1cの値が有意に改善～

朝長修先生（東京都新宿区：ともながクリニック 糖尿病・生活習慣病センター、東京女子医科大学糖尿病センター）は5月20日より開催の第64回日本糖尿病学会年次学術集会にて、「PERSONAL HEALTH RECORD（PHR）を用いた自己血糖測定管理」の演題で、H2株式会社（本社：東京都台東区、社長：エド デン）のシンクヘルス・アプリを用いた糖尿病管理について発表されました。

◆目的

近年、Personal Health Record（以下PHR）の導入による生活習慣病への治療効果が注目されている。H2株式会社のスマートフォンアプリ、シンクヘルスを利用して自己血糖測定（以下SMBG）結果を管理すると、種々の解析が可能になる。患者さんが来院していなくても測定結果を医療機関側で閲覧、共有することができる。PHRを用いて血糖管理が向上するかを検証する。

◆対象

当院通院中の糖尿病患者でインスリン療法と自己血糖測定を行っているものでシンクヘルスの利用を開始した59例が対象。男性39例、女性20例、年齢 45 ± 14 歳（平均 $\pm$ 標準偏差、以下同様）を対象とした。1型糖尿病が42名、2型が17名、糖尿病の罹病期間は 20 ± 10 年であった。シンクヘルスの利用開始前から3ヶ月間、HbA1c、体重を測定、インスリン使用量を観察した。

◆結果

- ・ HbA1cは $7.67\pm 0.83\%$ が1ヶ月後 $7.57\pm 0.80\%$ と有意に改善し、2ヶ月後 $7.54\pm 0.87\%$ 、3ヶ月後 $7.51\pm 0.80\%$ とさらに低下した。
- ・ シンクヘルスの使用後、血糖コントロールは改善した。観察期間中、インスリン投与量に変化がなかったことから、アプリの使用が奏功したと考えられる。
- ・ SMBGの結果を多角的に振り返ること、医療機関と共有できることが自己管理の向上につながった可能性がある。

また、発表の中でシンクヘルスの利点として下記の4点をあげられました。

- ・ 日々のSMBGデータはグラフ化され、患者はいつでも閲覧できる。
- ・ アプリに設定した目標血糖値に入っているかを色分け表示が可能である。
- ・ AIチャットボット機能により、前月のSMBGの結果を分析・サマライズして通知される。
- ・ アプリを通じて自身の血糖値を多角的に振り返ることが可能である。

発表資料のPDFは[こちら](#)



弊社の想い

昨今、政府もPHRに注目し普及検討を進めている中、医療従事者と患者様の双方に寄り添いながら日々サービス改善に努め、より一層、ITを駆使した一人一人の健康増進に貢献して参ります。

H2株式会社の概要

2013年に台湾で創業し日本法人は2018年2月に設立。アジアを中心に一般ユーザー、医療機関に対して血糖値など健康の課題を解決することを目的に、アプリと医療機関向けデータ&オンライン診療プラットフォームを提供。アプリは世界で約64万、日本で17万登録。

住所：〒110-0005 東京都台東区上野3-2-2 アイオス秋葉原604

URL：<https://www.health2sync.com/ja>

TEL：03-6284-2292

株主：損保ジャパンホールディングスなど

主要取引先：ノボノルディスクファーマ社、SOMPOひまわり生命、その他製薬・医療機器メーカー等

メディア掲載歴：日経クロステック、日本経済新聞、日経産業新聞、Yahooニュース、CNET Japan、調剤薬局ジャーナル、PHARMACY NEWS BREAK、ドラビズon-line、医薬経済社、薬事日報、薬局新聞、病院新聞、MIL、薬読、デジタルクロス、住宅新報、マンション管理新聞、矢野経済、デイリー新潮など多数

シンクヘルスアプリについて：以下QRコードよりダウンロード可能

